

〈事業報告〉

I 事業状況

1. 日独学術文化に関する研究並びにその助成（定款第4条第1項第1号）

〈第32回公開シンポジウム〉

(1) 開催日と場所：

令和6年12月1日（日）14時から17時

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 大ホール

(2) 参加者： 56名

(3) テーマ： 連続テーマ「世界」の2回目として「来たるべき世界の構図 — ロボットと仮想将来世代」

(4) 基調講演：

・石黒浩（大阪大学基礎工学研究科教授、ATR石黒浩特別研究所客員所長）：

「アバターと人間の進化」

・西條辰義（京都先端科学大学フューチャー・デザイン研究センターディレクター、総合地球環境学研究所・名誉フェロー）： 「フューチャー・デザイン」

(5) 討論：

・コメンテーター： 山極壽一（総合地球環境学研究所 所長、本研究所名誉顧問）、日独文化研究所 理事・監事・評議員

2. 日独学術文化に関する図書雑誌の編集及び出版刊行（定款第4条第1項第2号）

〈ワークショッププロシーディング集『無／空の思想の現在と展望』〉

(1) 内容： 西田幾多郎生誕150年・西谷啓治生誕120年を記念して2022年に開催された国際ワークショップ（共催：公益財団法人日独文化研究所・西田哲学会）のプロシーディング集

(2) 編集・発行： 公益財団法人日独文化研究所

(3) 刊行助成： 西田哲学会上田閑照基金、公益財団法人日独文化研究所

(4) 刊行年月・制作： 令和6年5月、文屋秋栄株式会社

〔目次〕

序言 言葉の半透過性（大橋良介）／Das Problem der Geschichte bei Nishida und Nishitani: vom Aspekt der technischen Welt（秋富克哉）／“Aesthetics” as a keyhole of interpretation. Looking at the “aestheticians” Nishida and Kuki（Anna ZSCHAUER）／西谷啓治の〈空の立場〉について（加藤千佳）／「日本的」な芸術から世界性への開け — 西田幾多郎と西谷啓治における日本文化論の観点から（長岡徹郎）／Encounter of Art and Philosophy: Nishida Kitarō, Fujioka Sakutarō, and Hishida Shunsō（Michiko YUSA）／Logik der Grenze: Eine Interpretation im Anschluss an Nishida Kitarō（Francesca GRECO）／Eternity as guest: On temporality in Nishida and

Nishitani (Enrico FONGARO) / Morphologies of Philosophy: On the Translation of Nishida's and Nishitani's Writings into European Languages (Raquel BOUSO) / 「絶対者」の論理と「空」の論理 — ヘーゲルにおける「透明性」と西谷の「即」(大橋良介) / 愛のはたらきとしての「辯證法」 — 西谷啓治の初期著作における「近代」と「悪」(Sova P. K. CERDA) / 西谷啓治における十字架—近代のキリスト教的系譜 (Tobias BARTNECK) / 西谷啓治と初期ハイデガーにおける哲学と歴史の問題 (樽田勇樹) / The Sangha and the Historicity of History in Nishitani's Philosophy of Culture (Stephen G. LOFTS) / Neither a person – neither an imperson. Towards the nonduality of Self (Robert LEHMANN) / 「もの」自体の現象学 — 西谷啓治における非主観的な現象学 (Morten E. Jelby) / Vers une «philosophie de la religion» post-nishitanienne. Réexaminer la philosophie de la religion de Nishitani (杉村靖彦)

〈シンポジウムプロシーディング集『仏教とキリスト教の〈自然〉』〉

- (1) 内容： 2023年11月に開かれたシンポジウム「仏教とキリスト教の〈自然〉」(主催：公益財団法人日独文化研究所、共催：テュービンゲン大学CIIS・ドイツ「恵光」日本文化センター、後援：公益財団法人仏教伝道協会)のプロシーディング集
- (2) 編集・発行： 公益財団法人日独文化研究所
- (3) 刊行助成： 公益財団法人仏教伝道協会、公益財団法人日独文化研究所
- (4) 刊行年月・制作： 令和6年8月、株式会社北斗プリント社

[目次]

Exposition des Themas „Die ‚Natur‘ im Buddhismus und Christentum“ (Ryosuke Ohashi) / Tübingen 2023 Überlegungen zum religiösen Charakter der Natur in der neueren Umweltbewegung (Eveline Cioflec) / Naturempfindung in der japanischen Ästhetik (Anna Zschauer) / The Concept of “Nature” in Indian Buddhist Scriptures (Shoryu Katsura) / A philosophical merry-go-round— Nature, Self and Self-Nature in Advaita Vedānta (Robert Lehmann) / Natur als ‚Von selbst‘. Anmerkungen zu einer interkulturellen Phänomenologie der Natur (Niels Weidtmann) / Natur und Schöpfung im Mainstream christlichen Denkens und in der christlichen Alleinheitslehre (Johannes Brachtendorf) / “Jinen Nature” in Shinran (Hisao Matsumaru) / Natur bei Zeami: „Von selbst“ als Vollzugsqualität leibgeistiger Praxis (行 gyō) (Leon Krings) / 西谷啓治における自然と空〜『宗教とは何か』における自然を巡る議論〜 (加藤千佳) / Die „Natur“ beim Dichter Bashō (Katsuya Akitomi) / 鈴木大拙の思想における「自然」(水野友晴) / テーマ解題『仏教とキリスト教の「自然」』(大橋良介) / 道元における「自然」(大橋良介) / Die Natur beim Zen-Meister Dōgen (Ryosuke Ohashi) / 西田哲学における〈歴史的な自然〉(竹内彩也花) / Anhang: Die Natur im Schamanismus - Bericht

über einen Besuch in einem Dorf im brasilianischen Urwald – (Ryosuke Ohashi)

〈年報の刊行 令和6年度年報『文明と哲学』第17号〉

(1) 内容：

〔特集〕 人と人との間——宗教と精神医学

(対談)

・鈴木大拙とはどのような人か

対談： 岡村美穂子＋水野友晴

【論考Ⅰ】

・『十牛図』に於ける「平常底」 森哲郎

・禅をめぐるハイデッガーと西谷啓治との呼応 秋富克哉

・木村敏と上田閑照——臨床哲学と宗教哲学における西田幾多郎 清水健信

・ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼッカーの場合 丸橋裕

・精神科医に「生きる意味」を語ることができるのだろうか？ 村井俊哉

【論考Ⅱ】

・「世界像」の時代から「真理像」の時代へ——ハイデッガーの「技術」論と仏教の「業」思想
大橋良介

・障害をめぐる文学の可能性——共生社会の実現に向けて 林英哉

・意味ある偶然の一致について——遠藤周作晩年の思索より 関口浩

・バルト神学におけるキリスト教と社会——その社会主義／共産主義への評価を通して
加藤希理子

・理想的な法のあり方——墮胎罪と中絶の権利を巡る議論からの一考察

坂本学史

〔公開シンポジウム『世界』〕

・宇宙のはじまり——進む初期宇宙の観測と残された謎 佐藤勝彦

・仏教の世界観——時間論と因果則 佐々木閑

(2) 編集代表： 安部浩理事

(3) 刊行年月・出版社： 令和7年3月、株式会社現代思潮新社

〈共同研究成果報告集 論集『共同研究 共生（続） SDGsと次世代への視座』〉

(1) 内容：

〔序論〕 SDGs の理念と現状

・サステナビリティが意味するもの 大橋良介

・持続可能な法秩序の構築 高山佳奈子

・サステナビリティについて——ヴェーバー、フロイト、ハイデッガー、脱成長論

関口浩

【第Ⅰ部】 現状と次世代への視座

- ・地球環境学の構想と予防原則の形而上学的基礎づけ——H・ヨナスの「未来の倫理学」の一解釈
安部浩

- ・危機と／の意味 谷徹
- ・つまらない・話——世界の液化化のなかで 谷徹
- ・戦後ドイツ公法学におけるケルゼン——ケルゼンのタブー化と「ケルゼン・ルネッサンス」について
高田篤

- ・医学研究規制における人と動物の区別 高山佳奈子

【第二部】 共生の諸層と諸相

- ・対人援助のあり方とコンパシオン——震災後傾聴ボランティアに携わる僧侶金田諦應の実践
和田信

- ・生・ロゴス・パトス 谷徹
- ・〈責任〉の深層——人間本性の内なる反一本性について 大橋良介
- ・東洋的思考と創造——鈴木大拙の提言 水野友晴
- ・『十牛図』に於ける「平常底」 森哲郎
- ・ボンヘッファーの『服従Nachfolge』における受動性——「服従」による抵抗
加藤希理子
- ・恥辱という感情と恥辱的な制裁——日本版DBS制度への一試論 坂本学史
- ・精神科医に「生きる意味」を語ることができるのだろうか？ 村井俊哉
- ・障害をめぐる文学の可能性——共生社会の実現に向けて 林英哉
- ・「空と歴史」考——西谷啓治『宗教とは何か』をもとに 秋富克哉

(2) 編集： 公益財団法人日独文化研究所

(3) 刊行年月・出版社： 令和7年3月、株式会社現代思潮新社

3. 日独学術文化に関する講習会、講演会及び談話会等の開催（定款第4条第1項第3号）

〈哲学講座「初夏講座」〉

(1) 開催日と場所：

第1講・令和6年6月28日（金）

第2講・令和6年7月5日（金）

第3講・令和6年7月12日（金）

第4講・令和6年7月19日（金）

第5講・令和6年7月26日（金）

第6講・令和6年8月2日（金）

会場はいずれも公益財団法人日独文化研究所セミナー室（オンライン配信）

(2) 受講者： 41名

(3) 講師： 谷徹（立命館大学名誉教授・特別任用教授）、丸橋裕（PATHOSOPHIA主宰）、

大橋良介（日独文化研究所 所長）、村井俊哉（京都大学大学院教授）

(4) テーマ： 「哲学と精神医学が会合う時」

〈哲学講座「中秋講座」〉

(1) 開催日と場所：

第1講・令和6年10月2日（水）

第2講・令和6年10月9日（水）

第3講・令和6年10月16日（水）

第4講・令和6年10月23日（水）

第5講・令和6年10月30日（水）

第6講・令和6年11月6日（水）

会場はいずれも公益財団法人日独文化研究所セミナー室（オンライン配信）

(2) 受講者： 19名

(3) 講師： 朝倉友海（東京大学教授）

(4) テーマ： 「東アジア哲学と意味の問題」

〈哲学講座「初春講座」〉

(1) 開催日と場所：

第1講・令和7年2月26日（水）

第2講・令和7年3月5日（水）

第3講・令和7年3月12日（水）

第4講・令和7年3月19日（水）

第5講・令和7年3月26日（水）

第6講・令和7年4月2日（水）

会場はいずれも公益財団法人日独文化研究所セミナー室（オンライン配信）

(2) 受講者： 51名

(3) 講師： 亀井大輔（立命館大学教授）

(4) テーマ： 「ジャック・デリダの思想——ハイデガーとの関係を中心に」

4. 日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開（定款第4条第1項第4号）

〈所報の発行〉

(1) 刊行年月： 令和6年10月（第13号）

(2) 内容：

本法人の活動内容や事業報告を、一般の人々にもわかりやすいようにとりまとめ、賛助会員をはじめ、事業参加者などに配布。また、令和7年4月以降、本法人ホームページでも公開。

〈地下書庫の整理〉

内容：

地下書庫の蔵書を整理し、日独学術文化に関する図書及び資料の収集並びに公開のために活用できる空間を、所長の指揮のもとで整備している。蔵書数は令和7年3月31日現在で2,191冊であることを確認している。

5. 日独学術文化に関する研究者の招待、派遣及び交換（定款第4条第1項第5号）

〈ドイツからの招聘〉

(1) 開催日と場所：

令和6年9月14日（土）14時から17時

関西学院大学梅田キャンパス14階1405教室

(2) 参加者： 14名

(3) 講師： クリスティアン・ヴァルトホフ（ベルリン・フンボルト大学教授）

(4) 講演： 「議会法」

(5) 主催： 「議会と内閣・行政による法定立プロセスの総合的研究」（科研費基盤研究（C） 代表 柴田堯史）

(6) 共催： 追手門学院大学法学部、公益財団法人日独文化研究所

〈ドイツからの招聘〉

(1) 開催日と場所：

令和6年9月22日（日）14時から17時

追手門学院大学総持寺キャンパス1階A521教室

(2) 参加者： 15名

(3) 講師： クリスチャン・ブムケ（ドイツ・ブツェリウス・ロースクール教授）

(4) 講演テーマ： 「政党助成の憲法上の限界——近年の連邦憲法裁判所の判決に照らして」
Die verfassungsrechtlichen Grenzen der Parteienfinanzierung im Spiegel
der jüngsten Rechtsprechung des Bundesverfassungsgerichts

(5) 共催： 追手門学院大学法学部、公益財団法人日独文化研究所

● 公益事業別の事業実績の内容内訳（単位：円）

令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

定款第4条	活動内容	謝金	会議費	旅費交通費	通信運搬費	印刷製本費	その他	計
研究及びその助成	公開シンポジウム	267,288	8,098	0	30,980	95,700	2,062	404,128
図書雑誌の編集及び出版 刊行	年報	334,109	0	0	23,854	1,095,800	12,255	1,466,018
	シンポジウム成果	0	0	0	5,400	1,643,142	1,590	1,650,132
	所報・地下倉庫	0	0	0	1,230	60,500	3,332	65,062
講習会・講演会等	哲学講座	501,166	0	0	77,829	209,880	2,750	791,625
研究者の招待・派遣等	学術交流	100,000	0	0			440	100,440
計		1,202,563	8,098	0	139,293	3,105,022	22,429	4,477,405
職員人件費他		0	0	0	123,000	0	3,849,657	3,972,657
合計		1,202,563	8,098	0	262,293	3,105,022	3,872,086	8,450,062

その他項目には、職員給料・法定福利費・消耗品費・支払手数料等が含まれます。

Ⅱ 登記、届出、報告事項等

1. 令和6年6月27日 内閣府に事業報告等に係る提出書を提出。
2. 令和6年7月8日 小川理事（以上、令和6年6月25日付退任）、林理事（以上、令和6年6月25日付新任）、秋富代表理事、大橋代表理事、高田常務理事、安部理事、高山理事、和田理事、齊藤監事、水野監事（以上、令和6年6月25日付重任）の登記を行う。
3. 令和6年9月27日 内閣府に理事の変更届出書を提出。
4. 令和7年3月7日 西川評議員（以上、令和6年12月23日付退任）、木村評議員（以上、令和7年2月21日付新任）の登記を行う。
5. 令和7年3月17日 内閣府に事業計画等に係る提出書を提出。
6. 令和7年3月17日 内閣府に評議員の変更届出書を提出。

Ⅲ 職務の概要

1. 役員の異動

- (1) 理事の辞任 小川 暁夫 氏 (令和6年6月25日付)
- (2) 理事の新任 林 英哉 氏 (令和6年6月25日付)
- (3) 評議員の辞任 西川 伸一 氏 (令和6年12月23日付)
- (4) 評議員の新任 木村 元 氏 (令和7年2月21日付)

2. 理事・監事に関する事項 令和6年度(令和7年3月31日現在)

理事定数 6名以上8名以内 現在 非常勤 7名 任期2年
監事定数 2名以内 現在 非常勤 2名 任期2年

役職名	氏 名	常勤・非常勤の別	就任年月日	再任年月日	任 期	現職名
理 事 (理事長 (代表理事))	秋富 克哉	非常勤	理事就任： H26. 4. 1 代表理事就任： H28. 7. 4	R6. 6. 25 代表理事再任： R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都工芸繊維大学 基盤科学系教授
理 事 (所長 (代表理事))	大橋 良介	非常勤	理事就任： H26. 4. 1 代表理事就任： H27. 10. 16	R6. 6. 25 代表理事再任： R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都工芸繊維大学 名誉教授 本研究所所長 (代表理事)
理 事 (常務理事)	高田 篤	非常勤	H26. 4. 1	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	追手門学院大学 法学部教授
理 事	安部 浩	非常勤	R4. 6. 27	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学大学院 人間・環境学研究科教授
理 事	高山佳奈子	非常勤	R3. 2. 16	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学大学院 法学研究科教授
理 事	林 英哉	非常勤	R6. 6. 25	—	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	関西大学 文学部准教授
理 事	和田 信	非常勤	H28. 6. 22	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	大阪国際がんセンター 心療・緩和科部長

監 事	齊藤 真紀	非常勤	R3. 2. 16	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学大学院 法学研究科教授
監 事	水野 友晴	非常勤	R5. 8. 22	R6. 6. 25	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	関西大学 文学部教授

(注) 役員は無給(定款第28条)

3. 評議員に関する事項 令和6年度(令和7年3月31日現在)

評議員定数 6名以上8名以内 現在 非常勤 7名 任期4年

役職名	氏 名	常勤・ 非常勤 の別	就任年月日	再任年月日	任 期	現職名
評 議 員	木村 元	非常勤	R7. 2. 21	—	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	株式会社アルテスパブリ ッシング代表取締役
評 議 員	清水 扇丈	非常勤	R4. 6. 27	—	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学大学院 理学研究科教授
評 議 員	初宿 正典	非常勤	H26. 4. 1	R4. 6. 27	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学名誉教授
評 議 員	谷 徹	非常勤	R4. 6. 27	—	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	立命館大学文学部 名誉教授・特別任用教授
評 議 員	松丸 壽雄	非常勤	H26. 4. 1	R4. 6. 27	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	獨協大学名誉教授 ドイツ「恵光」日本文化セ ンター所長
評 議 員	村井 俊哉	非常勤	R4. 2. 15	R4. 6. 27	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都大学大学院 医学研究科教授
評 議 員	森 哲郎	非常勤	H26. 4. 1	R4. 6. 27	令和7年度に 関する定時評 議員会の終結 の時まで	京都産業大学名誉教授

(注) 評議員は無給(定款第13条)

4. 顧問・名誉顧問に関する事項 令和6年度（令和7年3月31日現在）

名誉顧問 現在 非常勤 4名

顧問 現在 非常勤 2名

役職名	氏 名	常勤・非常勤の別	就任年月日	再任年月日	任 期	現職名
名誉顧問	千 玄室	非常勤	H29. 4. 14	—		裏千家大宗匠
名誉顧問	ヘルムート・シュヴァルツ	非常勤	H29. 4. 14	—		アレクサンダー・フォン・フンボルト財団元総長
名誉顧問	森 雅彦	非常勤	R5. 3. 7	—		DMG森精機株式会社取締役社長
名誉顧問	山極 壽一	非常勤	H28. 10. 10	—		大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長
顧 問	エンツィオ・ヴェッツェル	非常勤	R2. 2. 14	R6. 6. 25	令和7年度に関する定時評議員会の終結の時まで	ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 館長
顧 問	津野紀代志	非常勤	R5. 10. 9	R6. 6. 25	令和7年度に関する定時評議員会の終結の時まで	公認会計士

（注）名誉顧問については、任期の定めなし。

5. 研究員に関する事項 令和6年度（令和7年3月31日現在）

研究員 現在 非常勤 3名 任期1年

役職名	氏 名	常勤・非常勤の別	採用年月日	任 期	備 考
研究員	坂本 学史	非常勤	R6. 4. 1	R7. 3. 31まで	
研究員	関口 浩	非常勤	R6. 4. 1	R7. 3. 31まで	
研究員	加藤 希理子	非常勤	R6. 4. 1	R7. 3. 31まで	

（注）研究員は無給（研究員規程第10条）

6. 職員に関する事項 令和6年度（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名	就職年月日	担当事務	備 考
事務局長	山本 薫	R6. 4. 1	事務総括	
事務局員	樽田 勇樹	R6. 4. 1	事務補助	
事務局員	上田 有子	R6. 12. 1	事務補助	

7. 認可、許可、承認等に関する事項

特になし

8. 契約に関する事項

特になし

9. 賛助会員年会費、寄附金に関する事項

総 件 数	52件	総金額	312,000円
(内 訳)			
賛助会員年会費 (法人)	6件		150,000円
(個人)	46件		162,000円
寄 附 金 (法人)	0件		0円
(個人)	0件		0円

IV 役員会に関する事項

区 分	開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の 結 果
理事会 (第46回)	令和6年6月10日	1. 令和5年度の計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を承認する件 2. 役員、評議員及び職員の出張旅費に関する規定を変更する件 3. いざなみ監査法人との外部任意監査の契約を更新する件 4. ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川館長エンツィオ・ヴェッツェル氏を顧問に選任（重任）する件 5. 津野紀代志氏を顧問に選任（重任）する件 6. 評議員会へ提出する役員等候補者名簿を承認する件 7. 定時評議員会を招集する件 〈評議員会の招集に関する事項〉 ・評議員会を書面によるみなし決議の方法で開催すること。 ・評議員会における決議事項を以下の通りとすること。 ①令和5年度の計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を承認する件 ②理事の任期に伴う理事候補の提案 「秋富克哉氏を理事に選任（重任）する件」 「安部浩氏を理事に選任（重任）する件」 「大橋良介氏を理事に選任（重任）する件」 「高田篤氏を理事に選任（重任）する件」 「高山佳奈子氏を理事に選任（重任）する件」 「林英哉氏を理事に選任（新任）する件」 「和田信氏を理事に選任（重任）する件」 ③監事の任期に伴う監事候補の提案 「齊藤真紀氏を監事に選任（重任）する件」 「水野友晴氏を監事に選任（重任）する件」 ④顧問の任期に伴う顧問候補の提案 「ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川館長エンツィオ・ヴェッツェル氏を顧問に選任（重任）する件」	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

		件」 「津野紀代志氏を顧問に選任（重任）する件」 報告事項1. 理事長および所長の職務の執行状況についての報告 報告事項2. 共同研究成果刊行「共生と心身」（仮題）	
評議員会 （第23回）	令和6年6月25日	1. 令和5年度の計算書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書を承認する件 2. 秋富克哉氏を理事に選任（重任）する件 3. 安部浩氏を理事に選任（重任）する件 4. 大橋良介氏を理事に選任（重任）する件 5. 高田篤氏を理事に選任（重任）する件 6. 高山佳奈子氏を理事に選任（重任）する件 7. 林英哉氏を理事に選任（新任）する件 8. 和田信氏を理事に選任（重任）する件 9. 齊藤真紀氏を監事に選任（重任）する件 10. 水野友晴氏を監事に選任（重任）する件 11. エンツィオ・ヴェッツェル氏を顧問に選任（重任）する件 12. 津野紀代志氏を顧問に選任（重任）する件	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決
理事会 （第47回）	令和6年6月25日	1. 理事長（代表理事）を選定する件 2. 所長（代表理事）を選定する件 3. 常務理事を選定する件 4. 最高管理責任者を選定する件 5. 研究統括管理責任者を選定する件 6. コンプライアンス推進責任者を選定する件	可決 可決 可決 可決 可決 可決
理事会 （第48回）	令和7年1月17日	1. 「日独文化研究所存続プロジェクト素案」（令和6年1月29日理事会に提出分の再掲） 2. 令和7年度事業計画案及び予算案等を承認決定する件 3. 令和7年度に基本財産、最大10,000,000円、を取り崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認決定する件。ただし、評議員の承認を得ることを条件とする。 4. 人事について 5. 令和7年度の研究員採用の件 6. 評議員会を招集する件	可決 可決 可決 （特別決議） 可決 可決 可決

		7. (緊急議案) 評議員の辞任に伴う後任評議員候補者の決定の件 〈上記第6号及び第7号にかかる議案の内容〉 ・評議員会を書面によるみなし決議の方法で開催すること。 ・上記評議員会において以下の内容を提案すること。 ①令和7年度に基本財産、最大10,000,000円、を取り崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認する ②辞任する西川評議員の後任として、木村元氏を評議員として選任する 報告事項1. 理事長および所長の職務の執行状況についての報告 報告事項2. 就業規則一部改訂について	可決
評議員会 (第24回)	令和7年2月21日	1. 令和7年度に基本財産、最大10,000,000円、を取り崩して、公益目的事業及び法人管理のための資金に充当することを承認決定する件 2. 西川伸一評議員の辞任に伴って、木村元氏を後任として選任する件	可決 (特別決議) 可決
理事会 (第49回)	令和7年3月7日	1. 事務局長を選任する件 2. 登記に掲載しているURLをhttps://nichidokubunka.or.jpに変更する件 本研究所URLのhttps化（常時SSL）に伴い、現在のhttpからhttpsと記載を変更すること 3. 三井住友信託銀行京都四条支店の口座を解約する件 残高証明書の発行手数料が引き落とされているだけの状態のため、解約し現金化すること	可決 可決 可決

V 事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項は特にないため、附属明細書は作成を省略する。